

(別紙2)

論文審査の結果の要旨

氏名 熊野谷 葉子

熊野谷葉子氏の論文「北ロシア農村のチャストゥーシカ—演劇性の観点から見た特徴づけと分類—」（執筆言語・ロシア語）は、著者自らが1995年から2000年の間に3回にわたり現地で採録したチャストゥーシカを対象に、その韻律、詩行構成、テーマについて分析し、「演劇性」の観点からの分類を新たに提起したものである。チャストゥーシカは、アコーディオンの伴奏で四行詩の歌詞を集まりの場で即興で歌う口承歌謡であるが、農村部のそれについては歌詞をテキスト化したものはごくわずか公刊されているのみで、本論文の資料編にテキスト化され収録された876編は、我が国のみならず本国ロシアの研究者にとっても、きわめて貴重な資料的価値を持つものである。

第1章では、チャストゥーシカの韻律についての言語学者N.S.トゥルベツコイの論考（1927年）を具体資料で再検証した上で、北ロシア地域に特徴的な韻律構成を抽出した。第2章では、歌詞テキストについて詩学の観点から考察し、反復および誇張法が、実際に演じられる場において効果をあげていることが具体的に指摘された。第3章では、詩行構成について各行の機能を「叙述」「疑問」「勧誘」「呼びかけ」の観点から分析し、集まりの場で聞き手に向かって「叙述」するものが主流をなすことが明らかにされた。第4章では、歌詞内容のテーマを考察した結果、従来行われてきたテーマによる分類が研究者によって恣意的になる危険性があることを指摘し、それに代わる分類基準として新たに「演劇性」の観点を導入し、第5章で具体的に論じた。氏は、チャストゥーシカが演じられる実際の場での歌い手と聴き手とは別に、歌詞テキストのレベルにおける発信者と受信者を抽出し両者の具体的な組合せを基準に、採録した876編の分類を試みその全体的特徴を明らかにした。ここで提案された新たな分類は、従来のそれに代わる構造的基準として具体的な資料に則って検証されたもので、チャストゥーシカ研究に大きな寄与をなすものである。

著者は提案した分類基準を「演劇性」と名付けたが、テキストレベルの観点からの基準であることからいえば、的確なネーミングとは言い難い。また、テキストにおける発信者と受信者の「人称」の問題は未解決の部分を少なからず残している。しかし、本論文は、日本人研究者として初めて現地で行ったフィールドワークを踏まえ、その実証性と開拓性において従来の研究を大きく超えるものであり、博士（文学）の学位を授与するに十分値する博士論文であると判断する。